

水稻生育診断速報 2025 No.5

令和7(2025)年7月 25 日
農政部経営技術課技術指導班

☆☆☆ 生育概況（7月22日調査） ☆☆☆

＜早植コシヒカリ＞※ 那須塩原市については、追肥を行ったことから平均から除外

草丈：全地点で前年並み～長く、平均で前年より長い（前年比 106%）

茎数：那須町、那須烏山市、宇都宮市は前年より多いが、その他の地点は前年より少なく、平均で前年より少ない（前年比 94%）

葉齢：地点によりバラツキはあるが平均では前年並みに進んでいる（全年差±0.0）。

葉色：地点によりバラツキはあるがほぼ前年並み（全年差-0.3）。

＜早植とちぎの星＞

草丈：全地点で前年より長い（前年比 108%）。

茎数：真岡市で前年並み、他の地点で少なく平均で前年より少ない（前年比 92%）

葉齢：宇都宮市で 0.7 進み、農研センターは 0.6 遅れている。他の 2 地点はほぼ前年並み。平均で前年並み（全年差±0.0）。

葉色：宇都宮市、真岡市で淡く、さくら市、農研センターは前年並み。平均で前年より淡い（全年差-0.4）。

＜普通植とちぎの星＞

草丈：5月下旬植えは前年並み（前年比 101%）、6月中旬植は前年より長い（前年比 117%）。

茎数：5月下旬植えは前年よりやや少なく（前年比 97%）、6月中旬植は前年より葉齢が進んでいるためかなり多い（前年比 172%）。

葉齢：5月下旬植えは前年並み（全年差-0.1）、6月中旬植えは移植時の葉齢が前年より 0.8 進んでいたため、前年より 1.4 進んでいる。

葉色：5月下旬植は前年より 0.5 濃く、6月中旬移植は 0.7 淡い。

○気象概況

7月上旬：高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、気圧の谷や暖かく湿った空気の影響で曇りや雨となる日が多く、2日や3日、10日は雷を伴い猛烈な雨の降った所がありました。宇都宮の旬平均気温はかなり高く、旬間日照時間と旬降水量はともに多くなりました。

7月中旬：この期間の天気は、期間のはじめと中頃は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、期間の終わりは晴れの日が多くなりました。15日と20日は気圧の谷や湿った空気の影響で、北部では雷を伴い非常に激しい雨の降った所がありました。宇都宮の旬平均気温、旬間日照時間、旬降水量はいずれも平年並となりました。

関東甲信梅雨明け：7月18日ごろ（平年差：1日早い、昨年差：同じ）

生育調査結果

【早植コシヒカリ】県内 10 カ所

草丈は、前回調査と同様で、全地点とも前年より長くなりました（前年比 106%）。下位節間が 15 cmを超えると倒伏しやすくなりますが、農研センター調査では 13 cmを超えており近い数値になっています。さらに草丈も長いことから倒伏の発生が懸念されます。茎数は那須町、那須烏山市、宇都宮市で前年より多くなりましたが、他の地点では少なく、平均でも少くなりました（前年比 94%）。前回調査から 50 本程度少なく、茎数の整理が進んでいると考えられます。全地点平均で 366

本/㎡で目標穂数（目標穂数 360～380 本/㎡）を確保できています。葉色は前回調査からわずかに淡くなりました。塩谷町、鹿沼市、宇都宮市、農研センターは 3.0 を下回っています。

また、鹿沼市以外の地点は SPAD 値で 34 以下になっています。出穂間近な地点では、追肥を検討する必要があります。幼穂長から推定する出穂期を表1に表しました。今回調査で出穂期が確認できる地点は那須塩原市、日光市、鹿沼市、小山市、農研センターで、それらを含めた県全体の出穂期は7月23日で前年並みとなっています。

表1 幼穂長から予測した出穂日（コシヒカリ）

調査場所	幼穂長(cm)	出穂前日数	予測出穂日	前年出穂日	移植日
那須町寺子丙	14.7	-7	7月29日	8月2日	5月10日
那須塩原市一区町	出穂済	-	7月22日	7月22日	5月2日
塩谷町玉生	16.1	-7	7月29日	7月25日	5月3日
那須烏山市南大和久	20.7	-3	7月25日	7月19日	5月4日
日光市木和田島	出穂済	-	7月21日	7月21日	5月4日
鹿沼市久野	出穂済	-	7月19日	7月23日	5月1日
宇都宮市川田町	20.2	-3	7月25日	7月25日	5月3日
芳賀町東水沼	21.6	-3	7月25日	7月25日	5月4日
小山市鏡	出穂済	-	7月19日	7月21日	5月3日
農業総合研究センター	出穂済	-	7月22日	7月22日	5月7日
出穂済を含む平均	-	-	7月23日	7月23日	5月4日

【早植とちぎの星】県内 4 カ所

早植とちぎの星の草丈は、全地点で長くなりました（前年比 108%）。茎数は、真岡市で前年並みでしたが、他の地点は少なく、平均でも少くなりました（前年比 92%）。葉齢は、宇都宮市で進み、農研センターでは遅れました。平均では前年並みでした。葉色は、宇都宮市、真岡市で淡く、平均では前年より淡くなりました（全年差-0.4）。幼穂長から推定する出穂期は、7月30日で、前年の出穂期より2日遅くなっています。

表2 幼穂長から予測した出穂日（とちぎの星）

調査場所	幼穂長(cm)	出穂前日数	予測出穂日	前年出穂日	移植日
さくら市狭間田	7.1	-10	8月1日	7月30日	5月12日
宇都宮市下桑島町	11.7	-8	7月30日	7月31日	5月9日
真岡市清水	17.5	-7	7月29日	7月28日	5月8日
農業総合研究センター	15.2	-7	7月29日	7月25日	5月7日
平均	12.9	-8	7月30日	7月28日	5月9日

※ 全地区平均予測出穂日は平均幼穂長から求めた。

【普通植とちぎの星】県内2カ所

草丈は、5月下旬植えは前年並み、6月中旬植えは長くなりました（前年比117%）。茎数は、5月下旬植えはやや少なく（前年比97%）、6月中旬植えは移植時の葉齢が進んでいたことからかなり多くなりました（前年比172%）。葉齢は、5月下旬植えは前年並み（前年差+0.1）、6月中旬植えは進んでいました（前年差+1.4）。葉色は、5月下旬植えは濃く（前年差+0.5）、6月中旬植え淡くなりました（前年差-0.7）。

農研センター地温の推移

今年の農業総合研究センター水田の地温は前年と同様に高温で推移しています。特に6月中、下旬がかなり高くなりました。期間の平均気温は前年並みとなっていることから、前年同様に緩効性肥料の溶出が早まっている可能性があります。葉色は前年よりやや淡くなっています。高温障害発生の懸念があることから、後述する技術対策の徹底が必要です。

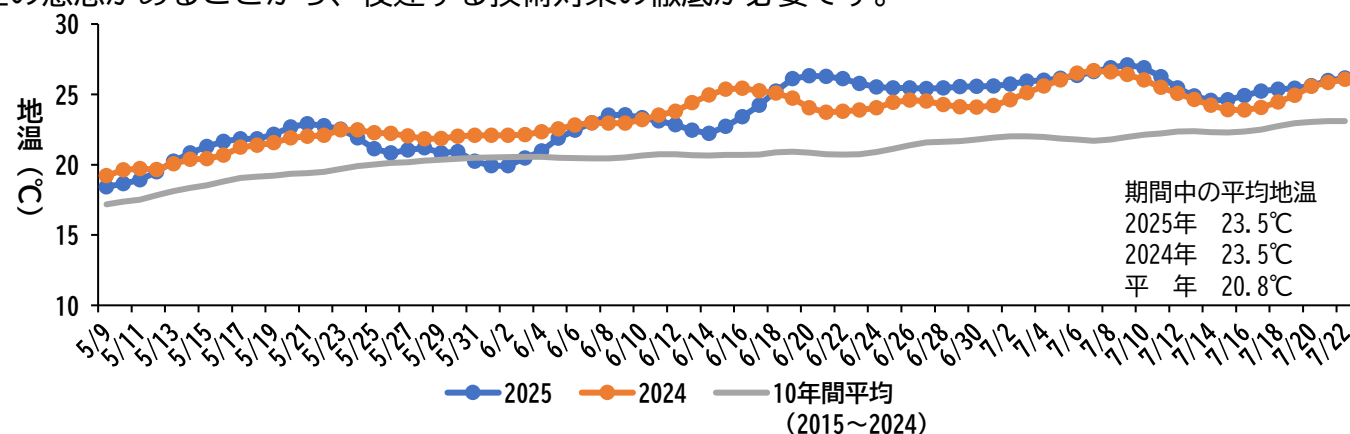


図1 農業総合研究センター水田の地温推移（5日間移動平均）

前年(2024年)と今年(2025年)の気温の推移（6月以降）

2024、2025年ともに、平均気温が高く推移しています。2025年は期間の平均気温が約1℃高くなっています。

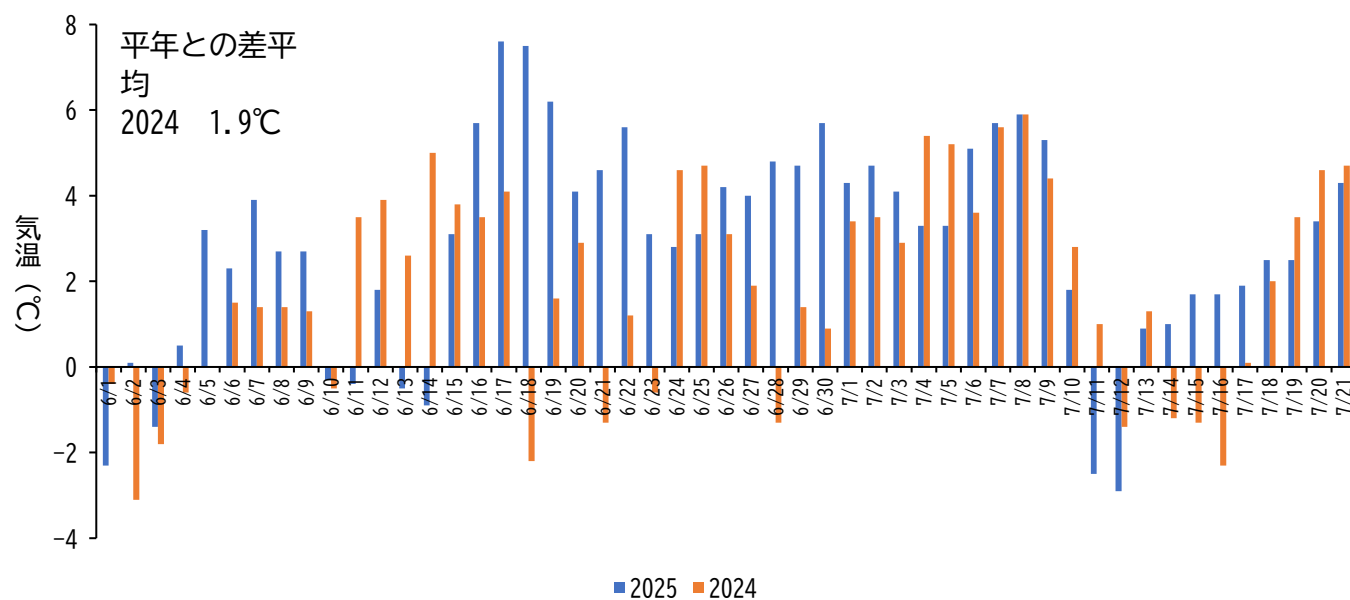


図2 前年と今年の平均気温経過の違い（平年差の推移）

気象庁 関東甲信地方1か月予報（7月24日発表）

関東甲信地方 1か月予報（07/26～08/25）		
2025年07月24日14時30分 気象庁 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 07/26～08/25	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 07/26～08/01	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 08/02～08/08	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 08/09～08/22	気温	3～4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	関東甲信地方	向こう 1 か月 07/26～08/25	10 20 70		
		1 週目 07/26～08/01	10 10 80		
		2 週目 08/02～08/08	10 20 70		
		3 ～ 4 週目 08/09～08/22	10 30 60		
降水量	関東甲信地方	向こう 1 か月 07/26～08/25	40 30 30		
日照時間	関東甲信地方	向こう 1 か月 07/26～08/25	20 40 40		

低い(少ない)平年並高い(多い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

【向こう1か月の予報】

気温：**高くなる**確率が70%と最も高く、特に前半（1、2週目）の気温が高くなる確率が高い。

降水量：**少ない**確率が40%で最も高い。

日照時間：**平年並、多くなる**確率が40%と高い。

農業総合研究センター 窒素含有率・窒素吸収量（生育診断ほ 7月7日調査）

○ 水稻生育診断2025 7/7 乾物重、窒素含有率及び窒素吸収量 2025/7/15 農業総合研究センター 土壤環境研究室

記号	事務所	品種	作期	施肥	乾物重	N含有率	N吸収量	平年値※		
								乾物重	N含有率	N吸収量
					g/m ²	%	kg/10a	g/m ²	%	kg/10a
N5	農セ本場	コシヒカリ	早植	全量基肥	503	1.42	7.1	406	1.32	5.2
N3	農セ本場	コシヒカリ	早植	分施	505	1.28	6.5	457	1.27	5.7
N0	農セ本場	コシヒカリ	早植	無窒素	326	1.34	4.4	306	1.15	3.5
全量基肥	農セ本場	とちぎの星	早植	全量基肥	497	1.57	7.8	463	1.36	6.3
N5	農セ本場	とちぎの星	早植	分施	630	1.59	10.0	500	1.32	6.6

※ 平年値について、コシヒカリ全量基肥・コシヒカリ分施は2015～2024平均値、コシヒカリ無窒素・とちぎの星全量は2020～2024平均値、とちぎの星分施は2021～2024平均値で示した。

※ R7年移植日：5月8日

【本年の傾向】

コシヒカリ：全量基肥は乾物重、窒素含有率ともに平年より高く、窒素吸収量も多い。

分施は乾物重が平年より高く、窒素吸収量も多い。

とちぎの星：全量基肥・分施ともに乾物重、窒素含有率ともに平年より高く、窒素吸収量も多い。

☆5/8～7/7における日平均気温： 平年値 21.1℃（2015～2024平均）
2024年 21.9℃（+0.8℃）
2025年 22.5℃（+1.4℃）

農業総合研究センター土壤環境研究室が調べた7月7日時点での窒素含有率と窒素吸収量のデータを示しました。7月7日時点（速報 N0.4）での農業総合研究センターの葉色は3.0（葉色板）で、ほぼ前年並だったものの、葉色の適正值からは下回っていました。窒素吸収量は平年値を上回っていました。

この時期の窒素吸収量が多いと籾数が増加すると推測されます。今回の調査結果では葉色が淡いことから、籾数が多く、葉色が淡い状態で登熟が進むと白未熟粒の発生が増加すると考えられます。出穂前の葉色診断により基肥一発肥料でも追肥を検討しましょう。

2025年 気象経過グラフ

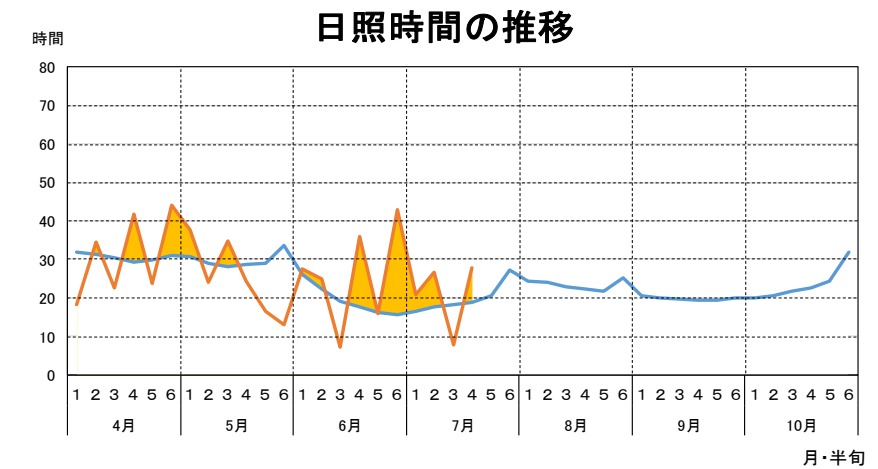
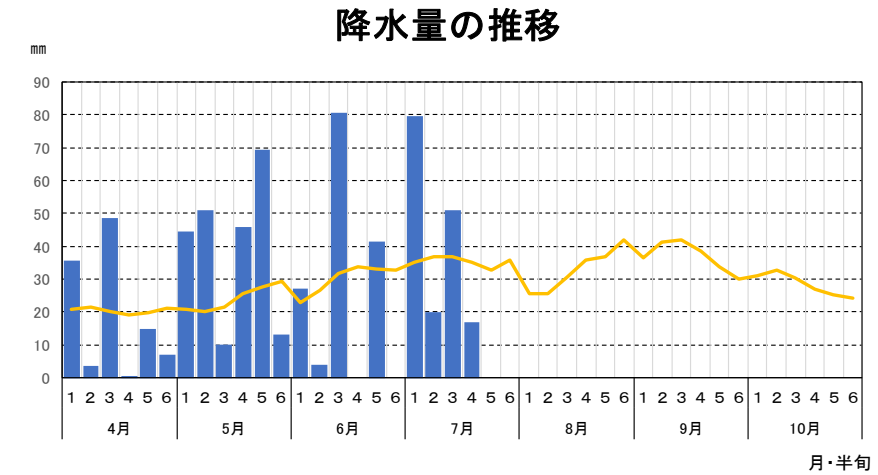
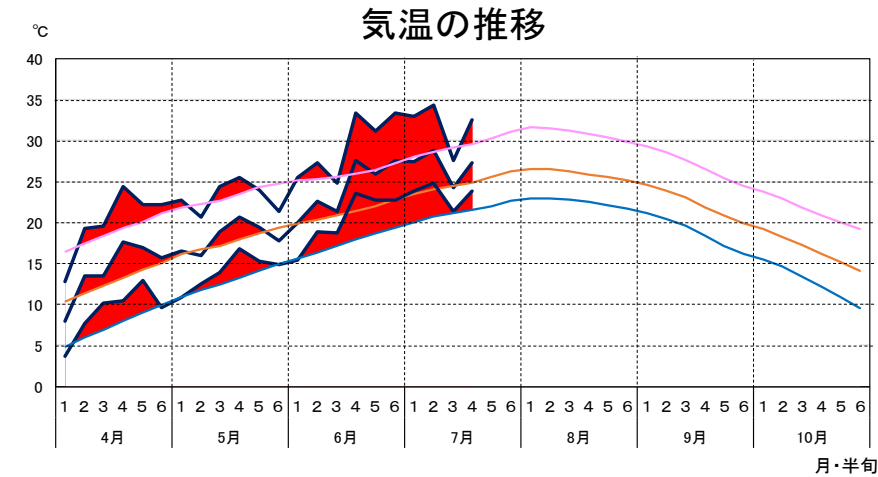
農政部経営技術課

自：令和7年4月1日

至：令和7年7月22日

AMeDAS地点 宇都宮アメダス

【暖候期グラフ】



4月		本年	平年	平年比／差
	平均気温(℃)	10.8	10.9	-0.1℃
	降水量(mm)	39	41.3	94.4%
	日照時間(h)	52.5	64	82.0%
	平均気温(℃)	15.5	12.8	2.7℃
	降水量(mm)	49	38.1	128.6%
中旬	日照時間(h)	64.3	58.9	109.2%
	平均気温(℃)	16.3	14.6	1.7℃
下旬	降水量(mm)	22	42.1	52.3%
	日照時間(h)	67.7	62	109.2%

5月		本年	平年	平年比／差
	平均気温(℃)	16.3	16.6	-0.3℃
	降水量(mm)	95.5	39	244.9%
	日照時間(h)	61.8	58.8	105.1%
	平均気温(℃)	19.7	17.5	2.2℃
	降水量(mm)	56	45.9	122.0%
中旬	日照時間(h)	59.2	54.5	108.6%
	平均気温(℃)	18.5	19.2	-0.7℃
下旬	降水量(mm)	82.5	64.3	128.3%
	日照時間(h)	29.5	62	47.6%

6月		本年	平年	平年比／差
	平均気温(℃)	21.2	20.1	1.1℃
	降水量(mm)	31	43.6	71.1%
	日照時間(h)	52.6	52	101.2%
	平均気温(℃)	24.5	21.2	3.3℃
	降水量(mm)	80.5	69.2	116.3%
中旬	日照時間(h)	43.2	37.1	116.4%
	平均気温(℃)	26.7	22.3	4.4℃
下旬	降水量(mm)	41.5	62.4	66.5%
	日照時間(h)	58.7	29.3	200.3%

7月		本年	平年	平年比／差
	平均気温(℃)	28.1	23.7	4.4℃
	降水量(mm)	99.5	76.3	130.4%
	日照時間(h)	47.4	34.3	138.2%
	平均気温(℃)	25.7	24.8	0.9℃
	降水量(mm)	68	73.2	92.9%
中旬	日照時間(h)	35.6	36.9	96.5%
	平均気温(℃)	29.5	25.9	3.6℃
下旬	降水量(mm)	0	65.9	0.0%
	日照時間(h)	7.4	47.7	15.5%

□□□ 今後の技術対策 □□□

(1) 水管理

現在は、幼穂伸長期から出穂期を迎えています。この時期は花粉が形成され、幼穂が伸長する時期ですので、水が不足すると花粉の不稔や、穂の抽出が妨げられます。土壌表面が白く乾燥しないようにかん水を行いましょう（出穂期から開花期は特に水が不足しないように管理してください。基本的には間断かん水、可能であればかけ流し）。また、漏水がないように、ほ場の周辺の点検を行いましょう。特に、畦畔のモグラ穴やザリガニ穴などがいないかを確認しましょう。

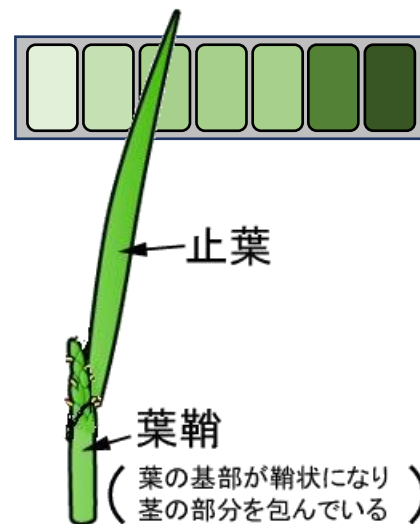
県南部においては、麦作に備え出穂後早めに水を切ってしまう方がありますが、昨年同様に**出穂～登熟中期に水不足になると、水稻品質を著しく低下させますので早期落水は絶対に行わないようにしましょう。**

出穂後 20 日までの高温（平均気温 26℃以上）は、白未熟粒等、高温障害発生に大きな影響を与えます。間断かん水を行う際には、水温の低い夜間や早朝に入水を行い、地温、穂の温度（穂温）を低く保つように工夫しましょう。

(2) 高温障害による品質低下を回避する施肥について

出穂後 20 日間の平均気温が 26℃を超える高温年の場合、出穂期から穂揃期の葉色が淡いと白未熟粒が発生しやすくなります。

今年は、葉色が淡いほ場が目立ちます。このような稲は籾数をささえる窒素が不足する可能性があります。品質を低下させないためにも、**出穂前 5 日（走り穂が出る頃）の止葉葉色が SPAD 値で[3 4]以下、葉色板で 3 を下回っていれば速効性の窒素肥料で 2～3 kg/10a の追肥**を行いましょう。昨年的高温下でも追肥を行った効果は確認されましたので実施を検討してください。穂揃い期頃までは効果がありますので、ほ場を見回り追肥の実施を検討してください。



(3) 出穂が早まっている場合の注意点

農研センターでの過去の出穂期から成熟期までの積算気温をグラフに示しました（図3）。出穂期が早いと登熟期間が高温に経過します。コシヒカリの登熟日数は 44 日前後で極端に変化しないことから、出穂期が早くなるほど登熟に至る積算気温が高くなっています。

農研センターの登熟積算温度を使用し、その期間の平均気温を基に刈取適期のシミュレーションを行いました（表3）。今年は、9月に入るとすぐに収穫になることが予想されますので、早めに収穫作業の準備をするようお願いします。

刈取適期の判断は帯緑色籾率（図4）で行うことが最も信頼できますので、時期になったらほ場をよく確認して、刈り遅れないようにしましょう。ただし、高温年は帯緑色籾の変化がわかりにくく、刈取適期の判断が難しくなるので注意が必要です。

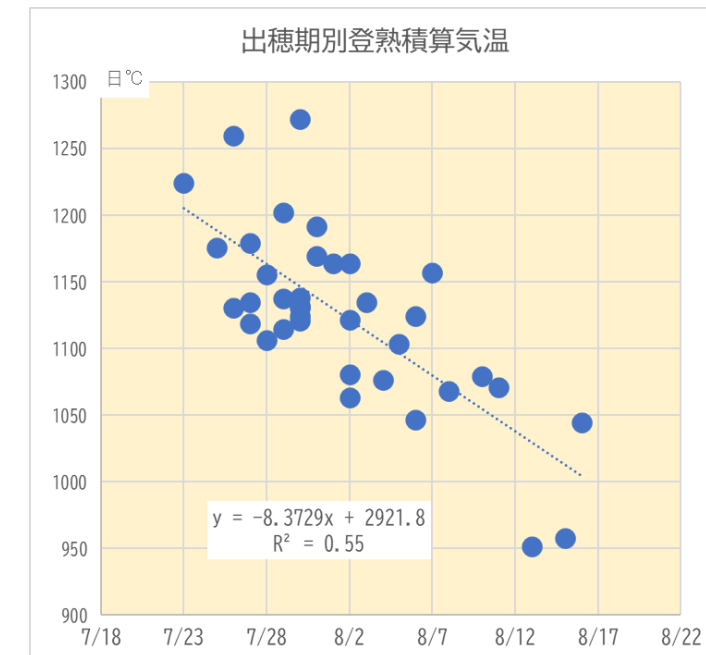


図3 農研センターにおける出穂期別登熟積算温度

表3 出穂期別刈取時期（シミュレーションによる）

出穂期	登熟積算温度 (日℃)	平均気温	登熟日数	刈取時期
7月20日	1,230	27.4	45	9月2日
7月25日	1,189	26.8	44	9月7日
7月31日	1,138	26.0	44	9月12日
8月5日	1,097	25.4	43	9月17日



図4 帯緑色籾率 10%からの刈取開始

(4)病害虫の防除

今年は気温が高く推移しています。水稻の生育が早まっているので、防除適期を逃さないよう注意しましょう。

ア 斑点米カメムシ

令和7年(2025)年7月14日付けで、斑点米カメムシ類に対して病害虫発生予察注意報が発出されました。注意報によると、すくい取りによる斑点米カメムシ類の捕獲数が、平年より約2倍以上と多くなっています(平年比212%)。

気象庁発表の1か月予報では、平均気温は高いと予想されていることから、斑点米カメムシ類の増殖や活動に好適な条件が続くと考えられます。また、出穂の早い水稻ほ場では、斑点米カメムシが多いことが確認されています。

ほ場の内外をよく観察して、適期防除を行いましょう。

<<薬剤防除>>

- 出穂期から穂ぞろい期頃に水田内で斑点米カメムシ類が認められる場合には、液剤は出穂期7~10日後まで、粒剤は出穂期~出穂期7日後までに散布する。
- その後も斑点米カメムシ類が認められる場合は、7~10日間隔で1~2回追加防除する。
※ カスミカメなど小型のカメムシ類には粒剤や豆粒剤の防除効果があるが、クモヘリカメムシなど大型のカメムシ類は、粉剤や液剤で防除する(直接薬剤がかからないと薬剤の効果が十分に発揮されないため)

イ イネカメムシ

前年から県南地域を中心に発生が確認されました。今年も発生が確認され、農業総合研究センターから7月8日付で注意報が出されました。イネカメムシは、出穂期に籾の基部を吸汁することで不稔が発生し減収につながります。また、乳熟期の吸汁は斑点米の発生につながります。

出穂期防除が必須であり、通常の斑点米カメムシ類と防除体系が異なります。表にあるような有効な薬剤を使用して適期防除に努めましょう。

イネカメムシ注意報(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/documents/2025chuuihou2.pdf>)



イネカメムシ
(体長12~13mm)

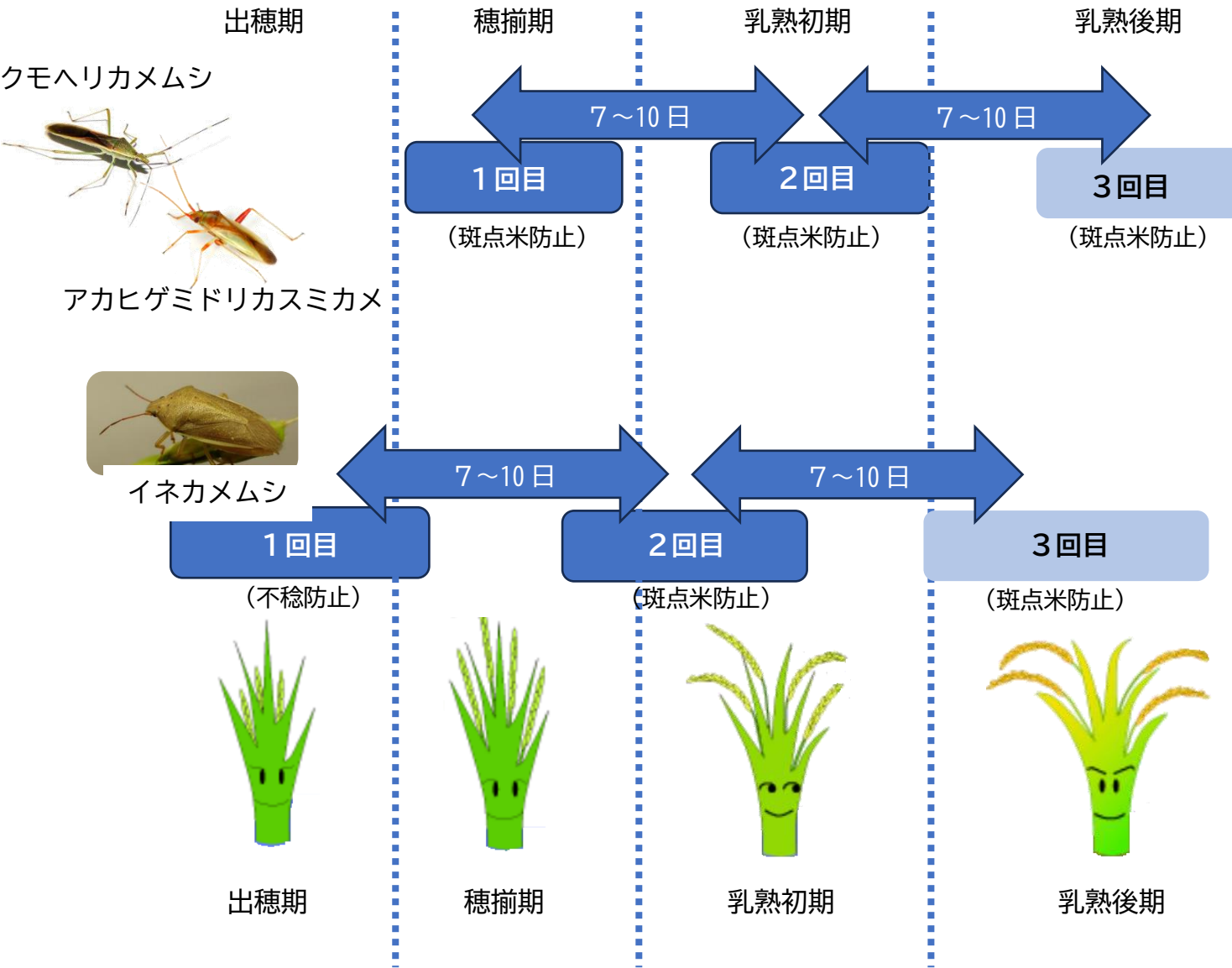
表4 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和7(2025)年6月30日現在)

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	IRAC コード
スミチオン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	2回以内	MEP	有機リン系	1B
キラップフロアブル	1000~2000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	フェニルピラゾール	2B
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス	ピレスロイド	3A
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	4C

注1 IRACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

注2 詳細は、「栃木県農作物等病害虫雑草防除指針」を参照。

【カメムシの種類による防除タイミング】



基部斑点米



籾の基部を吸汁され
不稔になった水稻

【参考データ】

〔早植コシヒカリ:本田における生育調査結果〕

No.	設置場所	草 丈 (cm)			1 株本数			茎 数 (本/㎡)			葉 齢			葉色(葉緑素計)			葉 色(葉色板)			葉色×莖数			幼穂長 (cm)		
		本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	差	本 年	前 年	差	本 年	前 年	差	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	差
1	那須町寺子丙	89.8	89.3	101%	23.0	20.0	115%	435	352	123%	12.9	13.0	-0.1	28.3	32.2	-3.9	3.3	3.4	-0.1	1,435	1,195	120%	14.7	3.5	11.2
2	那須塩原市一区町	105.6	98.2	108%	21.4	26.4	81%	379	425	89%	12.7	14.2	-1.5	29.6	30.6	-1.0	3.8	3.5	0.3	1,440	1,488	97%	出穂	19.4	-
3	塩谷町玉生	99.2	94.0	106%	18.7	24.7	76%	342	438	78%	12.8	12.6	0.2	32.9	36.5	-3.6	2.6	3.1	-0.5	894	1,359	66%	16.1	14.3	1.8
4	那須烏山市南大和久	108.5	97.2	112%	22.1	19.9	111%	406	373	109%	13.1	13.1	0.0	32.5	34.7	-2.2	3.6	3.4	0.2	1,450	1,270	114%	20.7	出穂	-
5	日光市木和田島	106.1	97.3	109%	16.9	16.2	104%	320	339	94%	13.0	12.4	0.6	32.4	30.7	1.7	3.0	3.2	-0.2	959	1,072	89%	出穂	22.1	-
6	鹿沼市久野	103.0	96.5	107%	19.1	24.0	80%	306	381	80%	13.0	12.9	0.1	34.4	39.7	-5.3	2.9	3.5	-0.6	887	1,342	66%	出穂	21.0	-
7	宇都宮市川田町	106.1	96.5	110%	20.8	19.2	108%	397	358	111%	13.1	12.8	0.3	30.7	34.5	-3.8	2.5	3.3	-0.8	1,004	1,195	84%	20.2	11.2	9.0
8	芳賀町東水沼	105.5	96.2	110%	17.2	22.0	78%	312	412	76%	13.5	13.6	-0.1	31.8	35.5	-3.8	3.2	3.3	-0.1	989	1,351	73%	21.6	14.8	6.8
9	小山市鏡	109.7	108.8	101%	20.4	24.5	83%	406	467	87%	12.5	13.0	-0.5	31.8	36.9	-5.1	4.0	4.0	0.0	1,637	1,848	89%	出穂	出穂	-
10	農業総合研究センター	103.0	98.9	104%	16.8	17.7	95%	374	394	95%	12.8	13.1	-0.3	27.4	34.1	-6.7	2.9	3.1	-0.2	1,079	1,227	88%	出穂	18.6	-
平均	全量基肥平均	103.4	97.2	106%	19.4	20.9	93%	366	390	94%	13.0	12.9	0.0	31.4	35.0	-3.6	3.1	3.4	-0.3	1,148	1,318	87%	18.7	15.6	3.0
分施	農業総合研究センター	104.6	99.7	105%	18.2	17.8	102%	405	395	103%	12.3	13.0	-0.7	31.5	35.7	-4.2	3.1	3.6	-0.5	1,243	1,410	88%		19.0	

※葉色は葉色板の数値
葉色は数値が高いほど濃い
黄色網掛けの那須塩原市分
は平均に含まない。

〔早植とちぎの星:本田における生育調査結果〕

No.	設置場所	草 丈 (cm)			1 株本数			茎 数 (本/㎡)			葉 齢			葉色(葉緑素計)			葉 色(葉色板)			葉色×莖数			幼穂長 (cm)		
		本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	差	本 年	前 年	差	本 年	前 年	差	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	差
11	さくら市狭間田	90.6	84.6	107%	21.2	22.8	93%	327	397	82%	12.5	12.8	-0.3	34.3	35.7	-1.4	3.5	3.4	0.1	1,136	1,351	84%	7.1	5.0	2.1
12	宇都宮市下桑島町	103.2	94.7	109%	21.5	24.5	88%	409	469	87%	14.2	13.5	0.7	37.0	40.5	-3.5	2.7	3.8	-1.1	1,089	1,760	62%	11.7	1.6	10.1
13	真岡市清水	97.0	90.3	107%	22.5	22.0	102%	420	414	101%	13.2	13.1	0.1	33.6	37.6	-3.9	3.3	3.8	-0.5	1,386	1,565	89%	17.5	16.8	0.7
14	農業総合研究センター	95.9	89.6	107%	19.5	20.3	96%	432	450	96%	12.2	12.8	-0.6	28.8	35.5	-6.7	2.9	2.9	0.0	1,241	1,308	95%	15.2	11.9	3.3
平均	早植平均	96.7	89.8	108%	21.2	22.4	95%	397	433	92%	13.0	13.0	0.0	33.4	37.3	-3.9	3.1	3.5	-0.4	1,213	1,496	81%	12.9	8.8	4.0

※葉色は葉色板の数値
葉色は数値が高いほど濃い

〔普通植とちぎの星:本田における生育調査結果〕

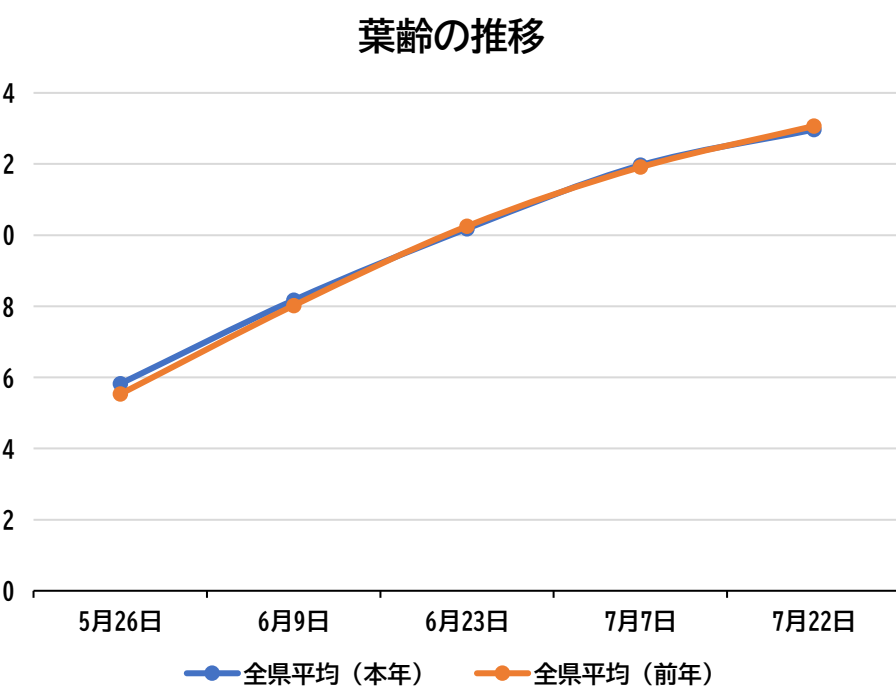
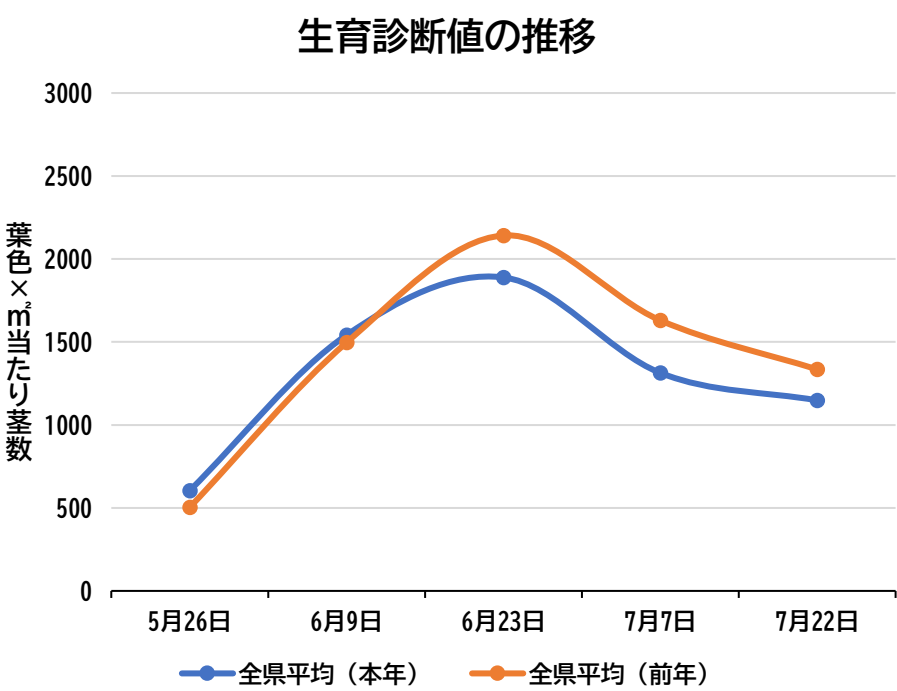
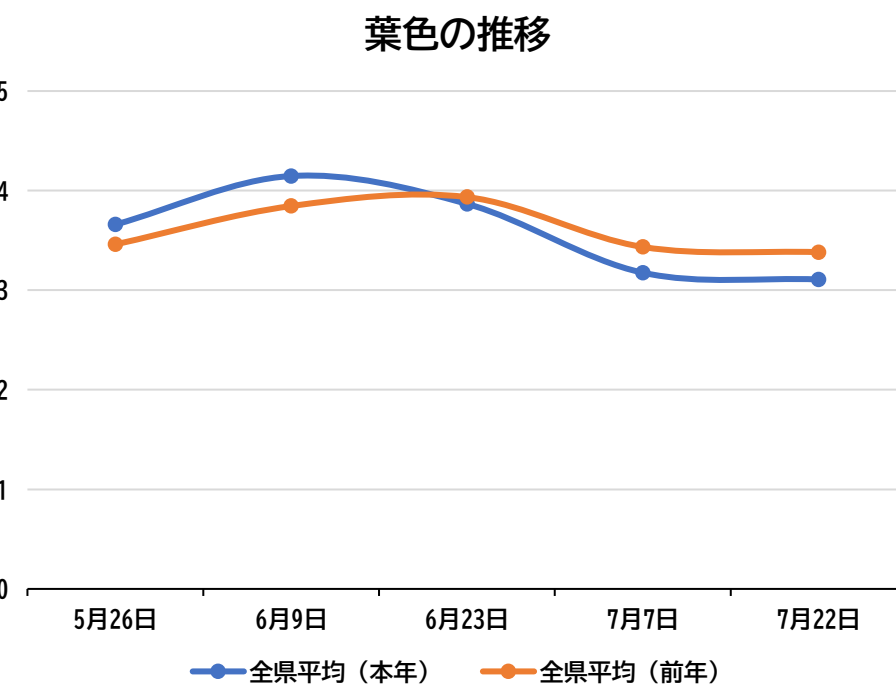
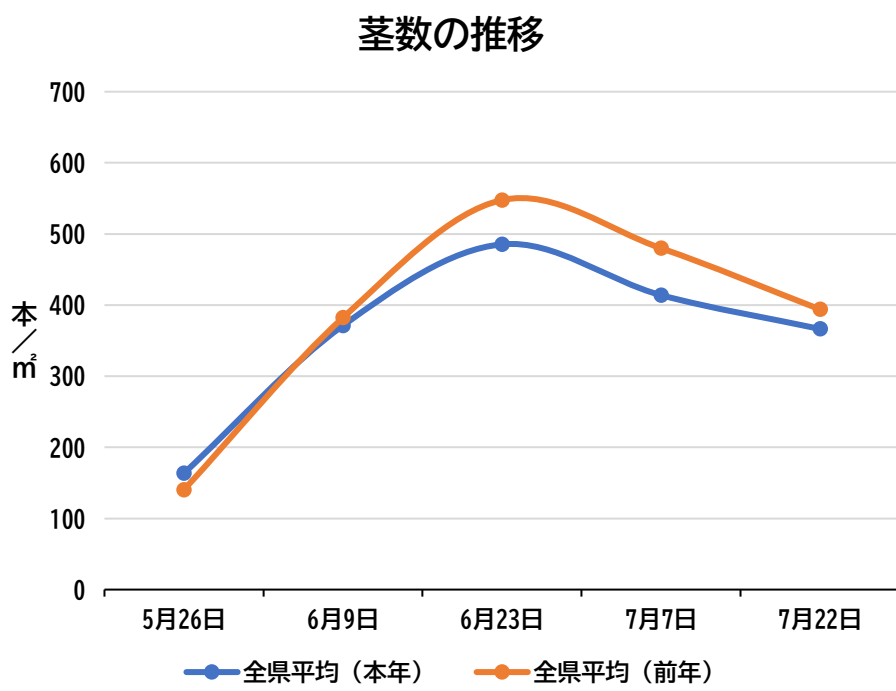
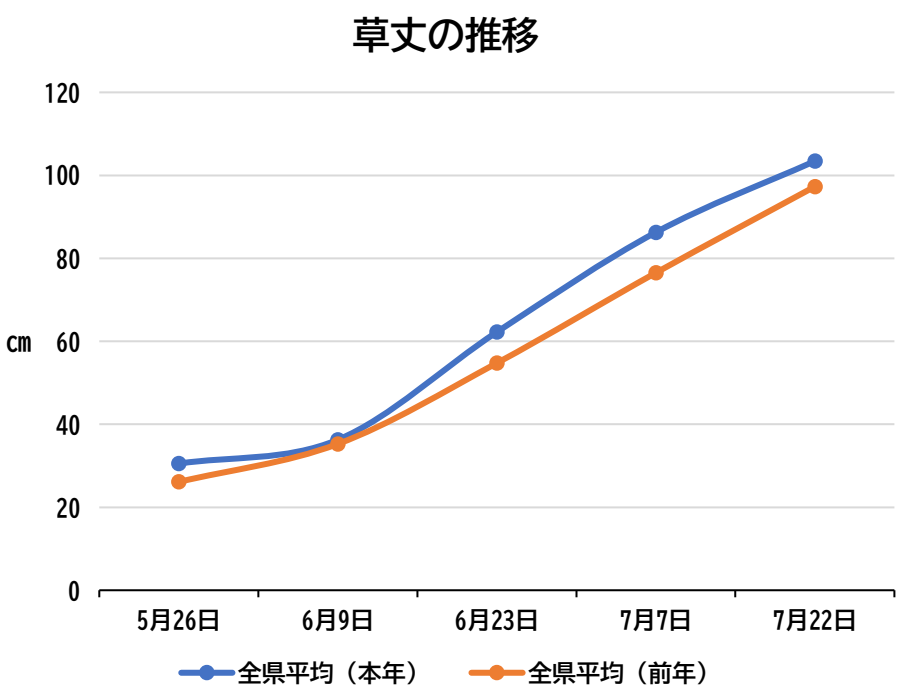
No.	設置場所	草 丈 (cm)			1 株本数			茎 数 (本/㎡)			葉 齢			葉色(葉緑素計)			葉 色(葉色板)			葉色×茎数			幼穂長 (mm)		
		本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	差	本 年	前 年	差	本 年	前 年	差	本 年	前 年	比(%)	本 年	前 年	比(%)
○5月下旬植え																									
15	栃木市皆川	82.4	81.8	101%	24.2	29.3	83%	452	468	97%	11.4	11.3	0.1	35.5	37.3	-1.8	4.0	3.5	0.5	1,811	1,647	110%	6.6	2.6	4.0
○6月中旬植え																									
16	佐野市堀米町	65.4	56.0	117%	22.7	13.7	165%	424	247	172%	11.3	9.8	1.4	39.9	44.1	-4.2	4.2	4.9	-0.7	1,781	1,223	146%	0.0	0.0	0.0
平均	普通植平均	73.9	68.9	107%	23.5	21.5	109%	438	358	122%	11.3	10.6	0.8	37.7	40.7	-3.0	4.1	4.2	-0.1	1,796	1,435	125%	3.3	1.3	2.0

※葉色は葉色板の数値
葉色は数値が高いほど濃い

7月22日調査
表 R7移植後76日（7月22日）の生育調査

処理	葉面積 (㎡/㎡)			乾物重 (g/㎡)		
	本年	平年	比 (%)	本年	平年	比 (%)
コシヒカリ・0.0	3.33	3.13	106	655	454	144
コシヒカリ・0.3	4.56	4.80	95	896	639	140
コシヒカリ・0.5 (全基)	4.21	4.44	95	837	640	131
とちぎの星・0.6 (全基)	5.68	4.53	125	895	728	123
とちぎの星・0.5	6.15	5.38	114	971	742	131

2025 生育診断ほ「コシヒカリ」生育経過（7月22日）



2025 生育診断ほ「とちぎの星」生育経過（7月22日）

